

＜学界消息＞

◇平成7年度浦野環境教育奨励金報告

水沢ゆみ代（1995年4月～1996年3月 50,000円）
「地域における環境教育拠点の現状と課題」

今年度で3期目にあたる「地域における環境教育拠点研究」は、地域環境教育拠点並びに推進組織の視察・ヒアリング等に加え、今期のテーマとして「環境教育とプログラム」を設定し、

- 1) 地域環境にやさしい環境形成者育成の基礎調査、
- 2) 行政と市民の新しい関係に必要な視点の明確化、
- 3) 生涯学習時代の環境学習のあり方について検討した。

柴田昌美（1995年6月～1996年4月 150,000円）
「韮公園学講座」

大阪市の都心にあつてリニューアルの動きがある韮公園（9.7ha）に関心を持つ三つの市民グループで実行委員会をつくり、市民自身が韮公園の自然的社会的価値を再発見しようとする連続学習を実施した。公園と都市の緑についての多角的なレクチャーと観察会をとおして、1) 自然を重視した都市の変革の動向、2) 韮公園の貴重な自然、3) 都市に緑を取り入れる際の市民コンセンサスの重要性、4) 公園の改造にあつての「公園生活史」という視点、5) 公園自体とその地域の歴史を合わせて尊重すべきことについて学んだ。これらの普遍的観点を今後のリニューアルのあり方をめぐる市民的な議論の基礎として活かしてゆきたい。全5回でのべ167名が参加。

永谷真一（1995年7月～1996年11月 150,000円）
「霞ヶ浦流域の地域と学校を結ぶ水の環境教育ネットワークづくり」

霞ヶ浦流域の学校・地域で実践されている環境教育活動の状況調査。霞ヶ浦流域の学校や地域グループなどがこれまで実施してきた水環境に関する環境教育活動を、聞きとり及びアンケートにて調査し、その成果を記録するとともに、理念、成

果、到達点、課題、改良点などをまとめて、教育実践、資料、人材等のデータを整理し、ネットワークづくりの基盤を整備している。また学校や地域リーダーを対象とした参加型ワークショップ及び講演を開催した。

中道貞子（1995年4月～1996年3月 150,000円）
「総合学習としての『環境学』」

生徒の自主活動を重視した総合学習「環境学」は、フィールドワークを中心に、講義・講演・見学などを内容としている。平成7年度の講義のテーマは1学期「水・空気と人の営み」3学期「人の営みとエネルギー」とした。3学期の講義は、教科の枠を超え、より統合された総合教科にふさわしい講義にしたいと考え、社会科・理科・保健体育科の各分野の内容を含むテキストを作成し、3クラス同時に、いろいろな教科の教師が同じ内容を扱う講義を実施した。また、RITE（地球環境産業技術研究機構）の見学を実施して未来に向けての研究の現状を認識させた。2学期には主としてフィールドワークを実施し、3学期に発表会を行った。

湊 秋作（1995年6月～1996年3月 100,000円）
「小学校において原体験を基盤とし、共生体験を大切にしながら各教科の共有集合の場で行う環境教育」

助成者は、環境教育の実践研究を4つの面から行った。1つは、五感を用いる原体験学習の開発であった。原体験は、環境を大切にする行動化を起こさせる要因である「感性」と「自然認識」を育てるという考えから、嗅覚や触覚など五感全てを用いる方法を創案した。2つめは、生き物のつながりを楽しみながら体験するアニマルゲームを開発した。3つめは、国語など各教科で行う授業と各教科の特徴をリンクさせた環境教育の実践研

究を行った。4つめは、「自然との共生の考え
と態度」を育てるために身近な湿地（たんぼ水族
館）での教育方法の開発であった。4つの中の1
つ（アニマルゲーム）は、本学会誌に掲載された。
他の実験は、他の学会誌に投稿中である。